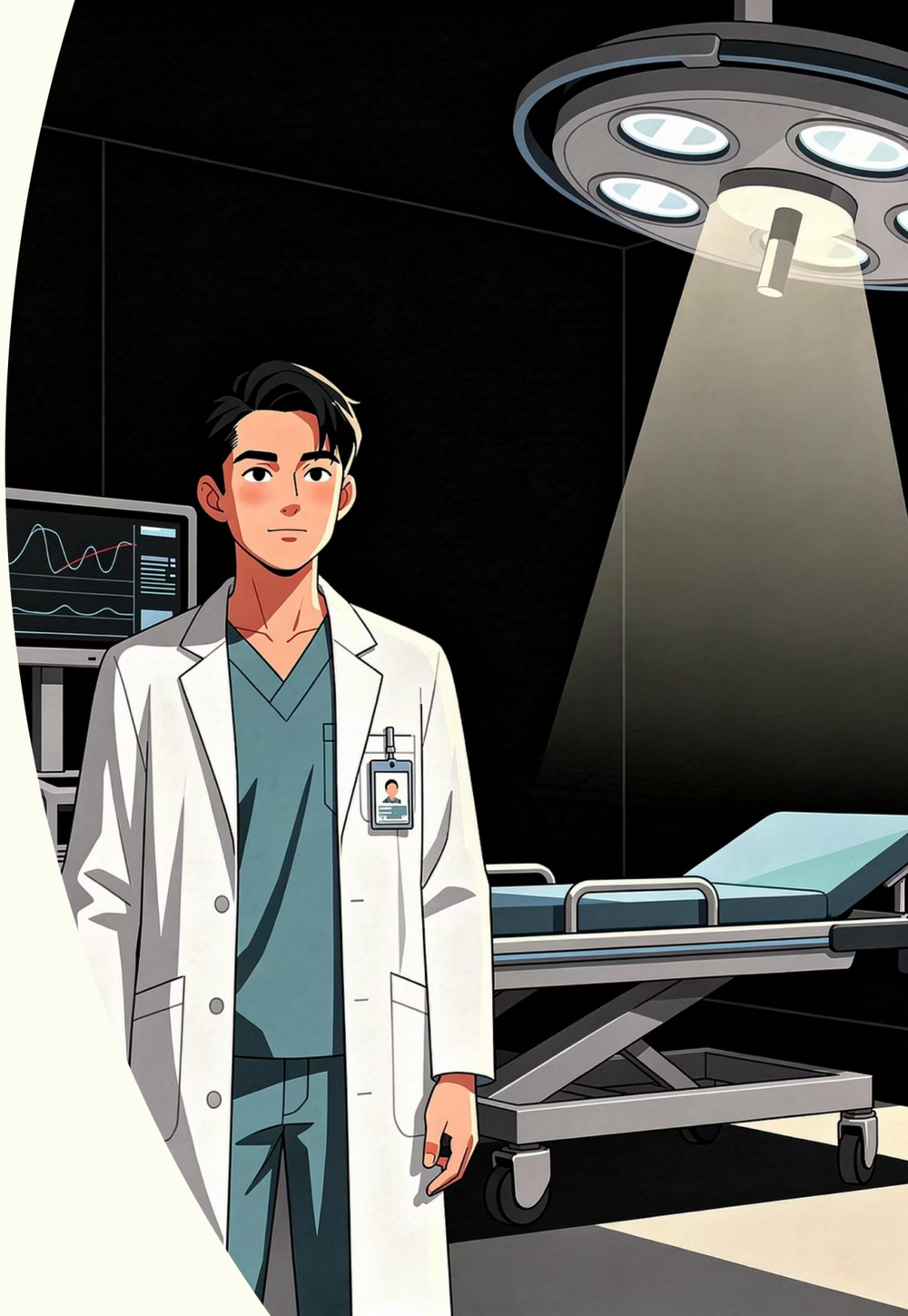
令和8年度シンポジウム　未来ビジョン若手医師の挑戦

素人が医師会の役員に！？

― 災害医療と現場から始まる改革 ―

藁谷　暢
福島県医師会
総合南東北病院



藁谷 暢（わらがい　みつる）

総合南東北病院 外科 医長
災害医療部開設準備室 室長
福島県医師会 常任理事
郡山医師会 理事

【略歴】

2004年 福島県立医大 卒業
2004年 いわき市立総合磐城共立病院 研修医
2006年 同　救命センター
2007年 総合南東北病院 外科
2009年 静岡がんセンター 胃外科
2010年 総合南東北病院 外科
2024年 郡山医師会 理事／福島県医師会 常任理事
2026年 災害医療部開設準備室 室長 兼務

【外科】

外科専門医
消化器外科専門医
内視鏡外科技術認定医

【災害】

DMATコーディネーター
災害医療コーディネーター

本日の講演の流れ

01

転機：R6能登半島地震

02

医師会活動を始めた理由

03

現在の活動：三つの柱

04

仕事のバランスの変化

05

DMAT × JMAT連携

06

東北広域ネットワーク

07

AI・IT × 地域でつくる救急・災害医療

08

新たな視点：未来医師会ビジョン委員会

09

今後やりたいこと：次世代へ

10

まとめ

転機となったR6年 能登半島地震

R6年1月の能登半島地震でDMATとして支援に入り、
診療だけでは地域医療は回らないと実感しました。

医師会や地域の開業医との連携の重要性を痛感し、
医師会活動を始めるきっかけとなりました。

医師会活動を始めた理由

→ 能登地震で実感

DMATとして支援に入り、診療だけでは地域医療は回らないと痛感。

→ 平時の備え

以前より、地域のBCPとマニュアル整備の必要性を実感。

→ 上司の後押しで決意

「やってみたらいい」の一言で市医師会役員へ立候補。

> 人と人を繋いでもらっている。それが医師会活動の原点。

現在の活動：三つの柱

JMAT研修の開催

県医師会主催で研修を実施し、災害時に動ける体制を整備。

BCP・マニュアルの策定

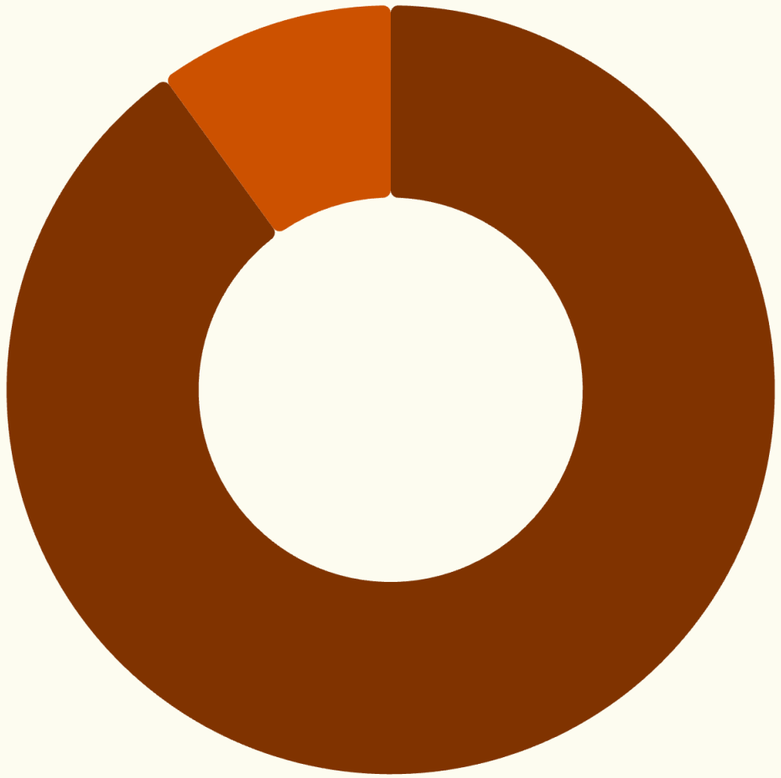
初動対応と連絡体制を整理し、訓練で実効性を高める。現場での役割分担と連携。

医療DX

現場の負担を減らすべく、ITを診療に用いる。

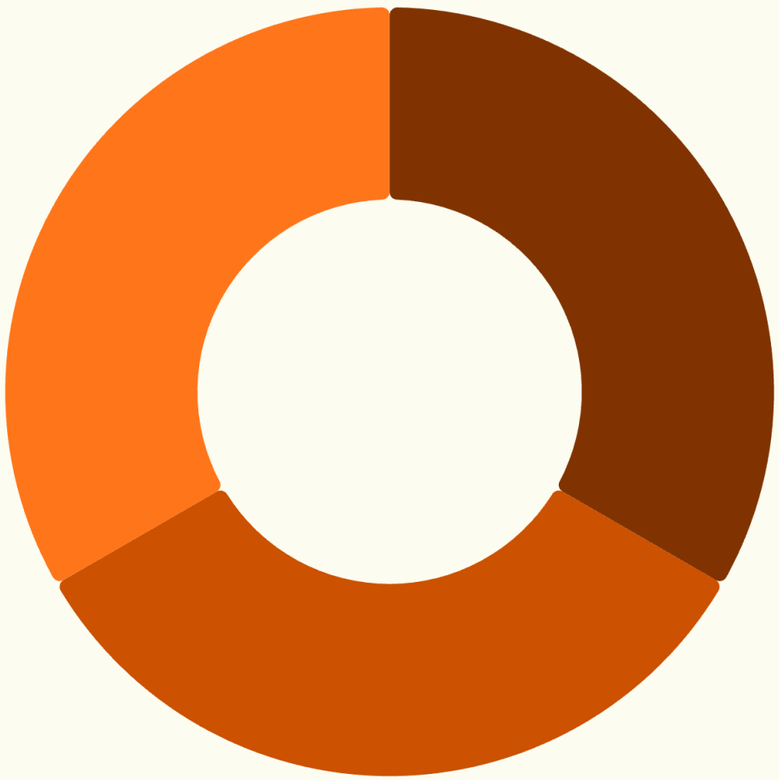
仕事のバランスの変化

以前



外科90%　救急10%　医師会0%

現在



外科33%　救急・災害33%　医師会33%

DMAT × JMAT：連携体制の構築

急性期対応
DMATが発災直後に現場へ

引き継ぎ
DMATからJMATへ切れ目なく移行

継続支援
JMATが地域医療を継続的に支援

地域連携
医師会・開業医と連携し復興へ

連携の必要性
DMATは急性期、JMATは継続支援。切れ目ない引き継ぎが重要。

日本医師会JMAT東北構想：広域災害医療ネットワークへ

東北6県で連携し、広域災害に強い医療体制を構築。
各県が協力し、支援、受援を行う。

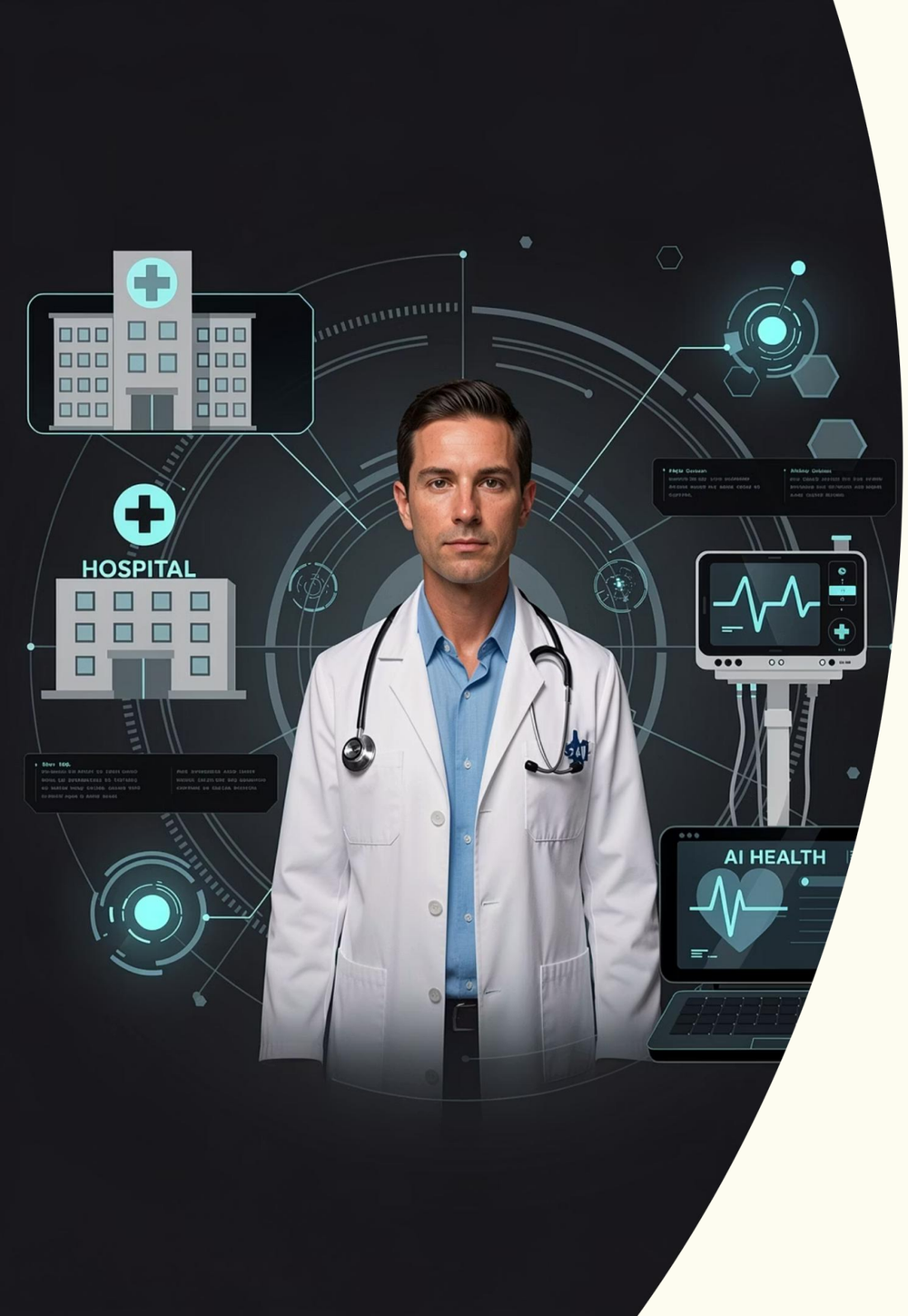
1. 6県医師会の連携

- 平時から連携体制を整備
- 広域連携JMATを構築

2. 全体の教育

- 各県持ち回りで研修を実施

→顔の見える関係



AI・IT × 地域でつくる救急・災害医療

平時からデータと連携を整え、災害時の判断を支える。

🤖 AI活用

トリアージと情報集約を支援

🌐 地域主導

病院・診療所・自治体で役割・情報共有

🔗 連携強化

患者・病床情報を見える化
メディカルコントロールにも活かす

新たな視点
日本医師会 未来医師会ビジョン委員会

全国8ブロックから推薦された30〜40代の若手医師で構成

2年間で7回の会議を行い、答申を作成する

→全国からの様々な才能・考えを持った委員に刺激を受け、同時に自分の力不足を実感＋とても勉強になる。

今後やりたいこと：福島県から、次世代へ

若手医療人材の育成を進め、学び続けられる仕組みを福島県でつくりたい。

災害医療教育

JMAT等の実践的研修を広げ、若手医師が現場で学べる機会を整備。

若手の医師会参画促進

県内の対話を増やし、若手の声を政策づくりにつなげる。

福島県版　未来医師会ビジョン委員会

教育モデル構築

福島発の仕組みを磨き、東北・全国へ広げる。

> 「若手医師の教育とJMAT研修の拡充を、福島から次世代への贈り物にしたい。」

現場から、改革を。

> 「素人」だからこそ、枠を超えられる。

外科医・DMAT・医師会役員として、地域の災害医療を支える。

まとめ：現場から、地域へ、未来へ

現場の経験を政策へ

能登地震の経験とDMAT・JMATの知見を、医師会活動に還元する。

「素人」の視点で変える

外科医としての現場感覚を生かし、地域医療の課題に向き合う。

地域から次世代へ

福島発のモデルを広げ、若手医師の育成と参画を進める。

> 「全てのことに、医師会の会員・役員の先生方の影響が大きい。人と人を繋いでもらっている。」

ご清聴ありがとうございました。